

キャラクターと人との価値観と思考の関係

情■■■■ 永江 倫佳
指導教員 宋 財沄

1 はじめに

本稿では、同じキャラクターを好む人は価値観などを共有するかを明らかにすることを目的とする。ストレスだらけの現代社会は、すべての世代がストレスから逃げられない社会だといえる。このような状況の中でのキャラクターという存在は「癒し」の対象として多くの人々に受け入れられている。感情のないキャラクターという対象と向き合うことで普段、無理に押し込んでいる感情や、制御している気持ちを圧制している人が本来の自分に戻れる、理解者として捉えていると考えられる。自分の理解者という存在は自分と同じ価値観であることを大前提としている。つまり、同じキャラクター好む人は同じような価値観を共有していると考えられる。

2 人の価値観

人の価値観は本人にとって価値を感じるものや考え方のことである。これまでの環境や生まれ持った性質や性格などのさまざまな要因で生まれるものであるため、個人の価値観は唯一無二だといえる。仲良くなる人同士の価値観は類似している関係であることが多いため、今回は好きなものと価値観が類似の関係にあるかに注目する。

本稿では人間の価値観の測定尺度として主要五因子、いわゆる「ビッグファイブ」を使用する。ビッグファイブとは人の性格（パーソナリティ特性）を5つの因子に分類したパーソナリティ心理学において幅広く使われてきた分類法のことである。5つの因子はそれぞれ開放性（Openness; 知的好奇心の強さや想像力の豊かさ・術的感受性・新しいアイディアを生む力・行為への親和性）、勤勉性（Conscientiousness; 良心性・感情や行為をコントロールする力・達成力の高さ・責任感の強さ）、外向性（Extraversion; 社交性や積極性、活発さ）、協調性（Agreeableness; 他者への共感力や配慮・思いやり）、神経症傾向（Neuroticism; ネガティブな刺激に対する反応の強さ）である。ビッグファイブの有名な測定方法としては「FFPQ-50（50項目）」や「BFS（60項目）」、「BFS-S（20項目）」、「主要5因子性格検査（70項目）」、「NEO-FFI（60項目）」などがあるが、これらは質問項目が多く、BFS-Sを除き、インターネット調査で実装するには限界がある。一方、小塩らが考案した日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) は10問でビッグファイブが測定可能であり、既存の測定尺度との整合性も高いことが知られているため（小塩・阿部・カトローニ 2012）、こちらを採用する。

3 調査方法

本稿は2023年11月6日から8日まで行われた「日常生活の行動及び意識に関する世論調査」という名のオンライン調査で収集したデータを使用する。回答者は楽天インサイトに登録した18歳以上のモニター2517人であるが、不良回答者と欠損値を有するケースを除外し、最終的なサンプルサイズは2023である。調査では性別や年齢といった基本的な社会経済的要因とTIPI-Jに加え、サンリオの有名キャラクター（シナモロール、ポムポムプリン、クロミ、ハローキティ、マイメロディ、ポチャッコ）に対する選好を測定した。

4 好きなキャラクターの性格間の関係

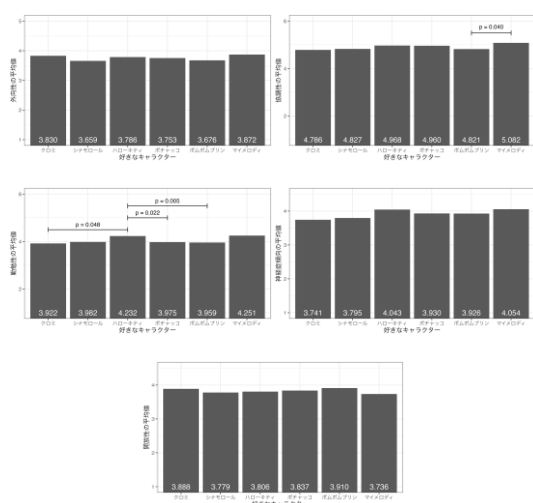


図 1. 好きなキャラクターとビッグファイブ

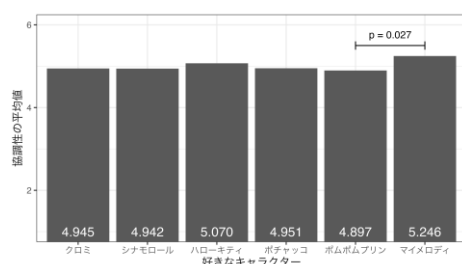


図 2. 好きなキャラクターと協調性（女性）

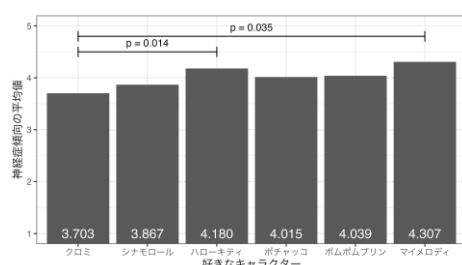


図 3. 好きなキャラクターと神経症傾向（男性）

図 1 は、ビッグファイブの各項目の平均値を好きなキャラクターごとに示したものである。一元配置分散分析の結果、協調性と勤勉性の数値に統計的に有意な差が見られ、とりわけ勤勉性の差は比較的大きい。具体的にハローキティが好きな人はクロミが好きな人に比べて勤勉性の数値が約 0.310 高い。またポチャッコが好きな回答者とポムポムプリンが好きな回答者に比べ、それぞれ 0.257、0.273 高く、いずれも統計的に有意な差である。

図 2 と 3 は同様の分析を男女別で行ったものである。注目すべき点としては女性における協調性（図 2）と男性における神経症傾向（図 3）である。具体的に、マイメロディが好きな女性はポムポムプリンが好きな女性に比べ協調性が約 0.349 高く、クロミが好きな男性はハローキティが好きな人に比べ神経症傾向が約 0.477 低く、マイメロディが好きな男性に比べても約 0.604 低いことが分かった。

5 結果

一部の価値観において好きなキャラクターごとの差が見られた。しかし、価値観とキャラクターの間に因果関係があると断定することは困難である。価値観の違いの多くは、ハローキティが好きな回答者とその他のキャラクターが好きな回答者間で確認されている。ハローキティは長年愛され、高齢者層からの選好が高い。また、年齢と

価値観には因果関係があると考えられる。つまり、キャラクターごとの性格の違いは相関関係であり、年齢という交絡要因による疑似相関である可能性を示唆する。

全体的に大きな性格の差は見られなかったものの、一部の主要五因子は好きなキャラクター間で統計的に有意な差があることが分かった。これは好きなキャラクターを共有する人同士では、同じ価値観を多少共有することを意味する。

参考文献

- 小塩真司・阿部晋吾・カトローニ ピロ. 2012.「日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) 作成の試み」『パーソナリティ研究』 21 (1): 40-52.